

## 点検評価表（外郭団体）

## I 団体の概要

（令和5年4月1日現在）

団体名	公益財団法人静岡県腎臓バンク		
所在地	浜松市東区半田山一丁目20番1号	設立年月日	昭和61年5月21日
代表者	理事長 太田 信隆	県所管課	健康福祉部医療局疾病対策課
設立に係る根拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人及び一般財団法人に関する法律</li> <li>・公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律</li> <li>・昭和54年12月18日施行の「角膜及び腎臓の移植に関する法律（法律第63号）」を根拠として設立された。平成9年7月16日の臓器の移植に関する法律（法律第104号）の成立をもって旧法は廃止となったため、現在は臓器の移植に関する法律を根拠とする。</li> </ul>		
団体の沿革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和61年5月1日に静岡県から財団法人の設立許可を取得した。厚生省から腎臓移植あっせんの許可を受け、全国で7番目の腎臓バンクとして事業を開始した。</li> <li>・平成9年施行の臓器の移植に関する法律（脳死体からの多臓器移植）により、日本臓器移植ネットワークに臓器のあっせんが一元化されたことに伴い、腎臓移植のあっせん事業からは撤退した（事業活動は、静岡県からの委託事業、自主事業も含め県内の臓器移植普及啓発活動を実施している。）。</li> <li>・平成22年5月静岡県第一号の公益法人として認可を取得した。令和3年設立35周年を迎えた。</li> </ul>		
運営する施設	-		
団体ホームページ	<a href="http://www.shizu-jinbank.or.jp">http://www.shizu-jinbank.or.jp</a>		

出資者	出資額（千円）	比率（％）
静岡県	150,000	48.9%
市町・静岡県市長会等	75,100	24.5%
ライオンズクラブ	20,350	6.6%
その他	61,494	20.0%
基本財産（資本金）計	306,944	100.0%

役職員の状況（人）			
常勤役員	-	常勤職員	3
うち県OB	-	うち県OB	-
うち県派遣	-	うち県派遣	-
非常勤役員	30	非常勤職員	-
役員計	30	職員計	3

## II 点検評価（団体の必要性）

## 1 団体の設立目的（定款）

腎臓移植術による腎臓機能障害者に対する腎臓機能の付与に資するため、腎臓移植の普及促進事業及び腎臓移植と腎臓病に関する知識の普及啓発事業等を行い、もって県民の福祉の向上と健康で活力ある社会の実現に寄与する。

## 2 団体が果たすべき使命・役割

＜腎臓移植の普及促進に関する事業＞

・腎臓移植をはじめとした臓器の移植・臓器提供に関する医療機関の基盤整備を行い、臓器提供・移植発生時のコーディネート業務を行う。

＜臓器移植と腎臓病の知識普及に関する事業＞

・臓器移植や腎臓病に関する知識の普及のための啓発イベントや勉強会、市民公開講座の実施。

・臓器提供意思表示カードの配布と臓器提供意思表示促進の活動。

### 3 団体を取り巻く環境

区分	内容
団体を取り巻く社会経済環境の変化や新たな県民ニーズ	財団の活動資金は、基本財産運用収入、特定資産運用収入、会費、県委託事業、補助金（（公社）日本臓器移植ネットワーク）及び寄付金による。資金の運用については、会計規程に則り、慎重かつ適正な運用を行っている。令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、集合型の研修や講演会などの時期や開催形態を変更し、事業を進めた。一般啓発については、街頭での意思表示カード配布や市民公開講座については自粛することとなった。臓器提供については、9人の方から提供いただき、33人（多臓器含む）の臓器不全の患者に移植することができた。また、県内9人の透析患者に腎移植をすることができた。昨年度に続きポスターコンクールを開催し、学生・一般の方から177点の応募があった。作品は16の医療機関で巡回展示を実施したところ、継続の希望を頂くことができた。
行政施策と団体活動との関係（役割分担）	静岡県第8次保健医療計画(2018～2023年度)の臓器移植対策の数値目標は、臓器移植推進協力病院数と院内移植コーディネーター（以下、Coという。）設置数の増加である。推進協力病院については、変化はなかったが、院内Coは70人から82人と12人増加した。各施設でも移植医療の理解促進を進め、臓器を提供したいという患者及び家族の意思を叶えられるよう努めていく。現在、県臓器移植Coは2人体制となり、脳死下・心停止後のあっせん対応及び医療機関・一般への普及啓発を進めている。コロナ禍の影響で一般啓発の自粛を余儀なくされたが、10月の移植医療普及推進月間には、グリーンライトアップなどにより、県民に向けての活動を実施した。
民間企業や他の団体との関係（役割分担）	①補助金：（公社）日本臓器移植ネットワークの都道府県支援事業に補助金を取得し、10月の臓器移植普及推進月間のグリーンライトアップを実施したほか、各種研修会などを実施した。 ②黄色い羽根募金による広報と募金協力：県医師会、県看護協会、県薬剤師会、県歯科医師会、県鍼灸師会、社会福祉協議会、金融機関、臓器移植推進協力病院、県（健康福祉センター含む）、静岡倶楽部、ライオンズクラブ ③10月臓器移植普及推進月間のグリーンライトアップは、新しく焼津市立総合病院、聖隷浜松病院の協力を得て、病院屋上や玄関のライトアップを実施した。

### 4 事業概要

（単位：千円）

区分	事業名	事業概要	R4 決算	R5 予算
県委託	静岡県臓器移植連絡調整者設置事業	①医療機関の臓器移植に関する基盤整備のための巡回活動と日本臓器移植ネットワークとの情報交換 ②臓器提供発生時、日本臓器移植ネットワークと連携のもと臓器のあっせんを行う	11,337	11,337
県委託	臓器移植普及啓発事業	①院内移植コーディネーターを対象とした研修会の開催 ②臓器提供施設の医師などを対象とした研修会の開催 ③オリジナル意思表示カード・リーフレットの作成 ④移植普及月間を中心とした普及啓発キャンペーンの実施 ⑤推進協力病院への巡回指導の実施	1,844	1,844
自主事業	移植推進事業	①腎移植担当医懇談会の開催（Web開催） ②移植医療推進のための講演会開催 ③腎臓バンクだよりの発行 ほか	7,362	7,515

自主事業	募金活動事業	活動費獲得のため、寄付金、賛助会費、黄色い羽根募金の募集活動の実施	963	1,007
その他	日本臓器移植ネットワーク地域支援事業	日本臓器移植ネットワークが行う都道府県支援事業の実施	1,372	1,500
合 計			22,878	23,203

## 5 事業成果指標

指標の名称（単位）	目標（上段）及び実績（下段）				目標値（年度）
	R2	R3	R4	評価	
病院巡回回数（回）	84	84	84	A	84 (R5)
	84	92	101		
研修会実施回数（回）	15	15	15	A	15 (R5)
	20	24	21		
献腎提供数（件）	7	7	7	A	7 (R5)
	6	4（内1件のみ腎臓なし）	9（内2件腎臓なし）		
募金金額（千円）	6,450	6,490	6,415	B	5,258 (R5)
	8,049	6,664	5,121		

※評価 … A：目標達成 B：目標未達成 C：目標未達成（乖離大）

## 6 事業成果の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症感染対策の上、研修の機会を減らさないよう、リモートやハイブリッド開催により、計画通り事業を実施した。一般の普及啓発活動については、市民公開講座は自粛したが、ポスターコンクールは昨年度に引き続き実施した。作品の応募数は令和3年度の99点から177点と約2倍となった。作品には、事前学習の上制作されたことが分かるメッセージが添付されており、作品応募を通じて、移植医療への理解を進めるものとなっている。黄色い羽根募金については、新型コロナウイルス感染症陽性者の増加による行動制限もあり、募金活動は例年より停滞した。また、ゆうちょ銀行の現金・硬貨手数料変更による募金設置者の負担があり、募金収入に影響があった。	○	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けたが、Webを活用して会議や研修会を実施する等事業の実施方法を工夫することで、予定事業を実施することができた。 また、令和3年度に35周年記念事業として実施したポスターコンクールを継続し、臓器移植に関する知識の普及啓発に努めた。 当該法人は収益事業を行っておらず、寄付金や募金は善意によるものであるため、短期間で収益をあげることは難しいと思われるが、今後も長期的に安定した歳入確保に努めてもらうこととする。

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 7 団体の必要性の評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>静岡県の腎移植希望登録者数は、令和元年363人→令和2年376人→令和3年385人→令和4年402人と毎年増加している。静岡県の臓器提供者数は、令和元年7人→令和2年6人→令和3年4人→令和4年9人とコロナ流行下、全国で提供数が大きく減少する中でも、提供数が途絶えることがなかった。これは、令和5年1月27日の静岡新聞大自在に掲載されたように、県臓器移植Coの熱心な普及啓発活動が実績となっていると考えられる。令和3年度から県内の臓器移植Coは2名体制となり、この啓発活動がより推進されている。また、令和3年度に35周年記念事業として実施したポスターコンクールを引き続き実施し、前年を超える応募があった。この事業と関連付けて、掛川西高校のパソコン部と連携し、掛川城プロジェクションマッピングに参加した。高校生が事前学習を経て、臓器移植普及のYouTube動画を作成し、12月24日に掛川城三の丸広場でプロジェクションマッピングを上映した。本団体が実施している医療機関の体制整備や県民への地道で熱心な普及啓発活動などは、臓器提供者の意思を叶えるために必要不可欠な活動であり、団体が行うべき役割は重要である。</p>	○	<p>当該法人は、(公社)日本臓器移植ネットワークによる研修等を受講した上で委嘱されている県臓器移植コーディネーターを有している県内唯一の団体である。長年、腎臓を含む臓器移植の理解を深める普及啓発活動を行い、臓器移植の成果を挙げている。令和4年度も掛川城でのプロジェクションマッピング等新たな活動を実施し、当該法人が県内の臓器移植の普及啓発に果たす役割は非常に大きいものである。また、24時間体制で臓器移植提供事例発生に備えるとともに、県内の医療機関等関係機関と連携しながら活動を実施しており、県の臓器移植推進施策を効果的かつ効率的に推進するためには、当該法人は、必要不可欠である。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

## 8 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 (経営健全性に係る意見を除く)	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団のPR活動を現在の実施方法に捉われずに行う</li> <li>・意思表示カードによる理解者増加（平成24年度）</li> </ul>	○ <p>一般への普及啓発活動として実施したポスターコンクールは、令和3年度の2倍の応募があり、応募作品は県内16の医療機関で展示を行った。ポスターコンクール通して、多くの県民に臓器移植を考えてもらう機会になったと考えている。また、掛川城プロジェクションマッピングにおいて、掛川西高校の学生に臓器移植普及啓発YouTube動画を作成してもらい、12月24日に掛川城三の丸広場での上映会及び意思表示カードの配布を実施するなど、若い世代を巻き込み普及啓発活動を実施した。</p>	○ <p>当該法人は、意思表示カード等による臓器移植に関する理解者の増加に向け、様々な啓発方法によりPR活動を展開し、普及啓発に努めている。</p> <p>また、令和3年度から実施しているポスターコンクールや令和4年度に実施した掛川城プロジェクションマッピング等を通じて、臓器移植に対する理解促進に貢献した。</p>

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

### Ⅲ 点検評価（経営の健全性）

#### 1 財務状況

（単位：千円）

区分	R2 決算	R3 決算	R4 決算	評価	備考（特別な要因）	
健全性指標	単年度収支 (d-h)	882	▲ 78	▲ 2,236	B	
	経常損益 (a+b-e-f)	882	▲ 78	▲ 2,236	B	前年度剰余金解消のため
	公益目的事業会計	882	▲ 78	▲ 999		
	収益事業等会計	-	-	-		
	法人会計	-	-	▲ 1,237		
	剰余金	5,956	6,976	3,862	A	

※評価 … A：プラス B：特別な要因によるマイナス C：マイナス

区分	R2 決算	R3 決算	R4 決算	主な増減理由等	R5 予算	
資産の状況	資産	328,235	328,696	326,938		325,499
	流動資産	6,466	7,640	5,198	寄付金の減少	3,722
	固定資産	321,769	321,056	321,740		321,777
	負債	3,365	3,904	4,382		4,621
	流動負債	1,315	1,854	2,332		2,331
	固定負債	2,050	2,050	2,050		2,290
	正味財産/純資産	324,870	324,792	322,556		320,878
	基本財産/資本金	306,390	306,517	306,944		307,063
	剰余金等	5,956	6,976	3,862	前年度剰余金解消のため	443
	運用財産	12,524	11,299	11,750		13,372
収支の状況	事業収益 (a)	8,370	12,668	15,366		15,251
	うち県支出額	6,461	11,267	13,181	臓器移植Co2人体制になったことによる県委託費増額のため	13,181
	(県支出額/事業収益)	(77.2%)	(88.9%)	(85.8%)		(86.4%)
	事業外収益 (b)	12,396	10,954	9,293	寄付金の減少	9,541
	うち基本財産運用益	4,182	4,136	4,012		4,099
	特別収益 (c)	-	-	-		-
	うち基本金取崩額	-	-	-		-
	収入計 (d=a+b+c)	20,766	23,622	24,659		24,792
	事業費用 (e)	16,167	19,710	22,877		23,203
	うち人件費	9,465	12,051	14,589	臓器移植Co2人体制になったことによる県委託費増額のため	14,457
(人件費/事業費用)	(58.5%)	(61.1%)	(63.8%)		(62.3%)	
事業外費用 (f)	3,717	3,990	4,018		3,892	
特別損失 (g)	-	-	-		-	
支出計 (h=e+f+g)	19,884	23,700	26,895		27,095	
収支差 (d-h)	882	▲ 78	▲ 2,236		▲ 2,303	

## 2 経営改善の取組の実施状況と評価

令和4年度も継続して外部（日本臓器移植ネットワーク）の助成金を活用し、グリーンライトアップの実施場所を増やす等、助成金の範囲内で広報活動に努めた。この活動により令和5年度は、ライトアップ箇所の増加につなげることができた。また、ホームページの活用により、関係者への資料提示や会議開催案内などの郵送経費や事務作業が削減された。賛助会員の募集については、ライオンズクラブへの働きかけを行った。コロナ禍のため、ライオンズクラブの例会などの自粛により、増加には至らなかったが、寄付金の贈呈につながった。黄色い羽根募金については、ゆうちょ銀行の現金取扱手数料及び硬貨入金手数料が令和4年1月より経費発生しているため、令和4年度の黄色い羽根募金の依頼の際に説明書を追加し、振込手数料のみの他銀行を利用して募金入金をお願いするなどの対応を行い、経費の増大を抑えた。令和3年度に発生した剰余金については、特定費用準備資金として国内外で行われる研修会への医療従事者参加に係る助成費の積立等を行い、計画的に剰余金の解消を図っている。

## 3 赤字の要因（前年度の単年度収支、経常損益が赤字の団体のみ記載）

令和3年度に単年度で大口寄付金があったことによる剰余金解消のため、令和4年度の単年度収支は赤字となった。

## 4 経営の健全性の総括評価

団体の自己評価		県所管課による評価	
判定	評価	判定	評価
○	<p>基本財産の運用と県委託費、賛助会費・寄付・募金収入及び（公社）日本臓器移植ネットワークの助成金を事業資金として活用している。</p> <p>令和4年度は、大口寄付が減額したことと新型コロナウイルス感染症流行による経済活動の減退などの影響もあり、寄付金及び黄色い羽根募金は当初予算見込みより収入減となった。寄付金の減少や賛助会費の減額、会費未納等が増加しているため、賛助会員を増加すべく、ライオンズクラブへの協力依頼を行ったところ、令和4年度は賛助会員の増加はなかったが、寄付金の贈呈につながった。</p> <p>引き続き、腎バンクだよりへの広告募集や賛助会員の増員募集などを実施し、安定的に事業資金を確保するよう努めていく。</p>	○	<p>当該法人は収益事業を行っていないため、基本財産運用益と委託費、賛助会費・寄付金等が主要な財源となっている。賛助会費や寄付金は、善意によるものであるため、安定的に収入確保をすることは難しいが、当該法人も賛助会員の増加に向けて地道に営業活動を続けており、財源確保に努めている。</p>

※判定欄 … ○：良好 △：改善を要する ×：抜本的な改革が必要

5 団体改革の進捗状況（過去の行政経営推進委員会からの意見への対応状況）

行政経営推進委員会意見 （経営健全性に係るもの）	対応状況	
	団体記載	県所管課記載
・寄付金収入の増加（24年度）	<p>○ 令和4年度は大口寄付者による寄付金が減額したため、前年度実績を下回った。また、単発ではあるが、ライオンズクラブからの寄付をいただいた。</p> <p>黄色い羽根募金においては、印刷物単価が上昇し、また、ゆうちょ銀行手数料変更に係るお知らせ文書送付のため、全体として費用は増大したが、一括印刷や発送方法の見直しにより極力費用削減を図った。</p> <p>令和5年度に向けて、法人活動紹介冊子を作成し、賛助会員・寄付金確保の活動を計画している。</p>	<p>○ 令和4年度の賛助会費実績は前年度並みであったが、法人は継続的に賛助会員の増員増額の活動を行い、理事等にも新規会員獲得の営業活動を促している。令和5年度からは、賛助会員増加に向けた新たな活動を計画しており、安定的な収入確保に努めている。</p> <p>黄色い羽根募金活動においては、印刷単価の上昇や手数料変更により、費用が増加したが、発送方法の見直し等を行い、効果的な募金活動を行っている。</p>

※○：対応済 △：対応中 ×：未対応

## IV 改善に向けた今後の方針

### 1 点検評価を踏まえた経営の方向性

今後の展望、中期的な経営方針（団体記載）	団体の方針に対する意見等（県所管課記載）
<p>当財団は、県内唯一の臓器移植普及啓発団体として、臓器移植のあっせん業務を行う専門職員の静岡県臓器移植Coが2名在籍しており、県内医療機関の体制整備支援や一般県民の理解を深める啓発活動を実施している。令和4年度は9人の方からの臓器提供をいただき、33人（多臓器含む）の臓器不全の患者様に移植することができた。令和2～3年の新型コロナウイルス感染症流行により、全国の提供数は30%減少するなか、静岡県は各医療機関の協力を得て、提供数を維持することができた。これは日頃の医療機関への普及啓発活動が奏功しているため、今後も継続した活動を続ける。また、一般啓発についても、Web等の活用により、より広い層を対象に活動をしていく方針である。令和4年度は、掛川西高校の学生による臓器移植普及啓発動画作成を行ったが、今後も学生向けに研究活動を支援する等、新たな層への啓発を進めたい。また、安定的財源の確保が重要であることから、令和5年度も賛助会員の増員や募金、自動販売機の設置増加を目指し、活動を実施していく。</p>	<p>当該法人は、県内の臓器移植推進協力病院と連携しながら腎臓をはじめとした臓器移植に関する医療提供体制の構築を着実に進めており、県内の令和4年度臓器提供件数は9件であり、前年度を上回る件数となった。</p> <p>令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、腎臓移植の普及促進や、移植に携わる医療従事者を対象とした移植関係者会議や研修会の開催、専門的知識の情報交換や症例検討等を行い、スキルアップを図っている。</p> <p>今後も、同様の事業活動を継続し、効果的な臓器移植に関する理解促進への取組みを進めていくこととするが、そのためには、安定的な資金確保が不可欠であり、その限られた財源の中で収支相償の原則に従った事業執行をし、中長期に渡り健全経営を行っていく必要がある。令和5年度も引き続き、賛助会員の増員増額等、安定的な収入確保に努めてもらうこととする。</p>

### 2 今年度の改善の取組

団体の取組（団体記載）	団体の取組に対する意見等（県所管課記載）
<p>令和4年度は、中長期の経営改善を見据え、執行部と監事（金融機関職員）が財務の検討を行った。令和5年度も引き続き、保有債券の運用方法等の検討を行っていく。</p> <p>収入確保については、臓器移植ネットワークなど他団体の助成金を活用し事業を実施していくとともに、寄付・賛助会員・募金・寄付型自販機の拡充を行う。令和4年度は、ライオンズクラブへの事業協力依頼の訪問により寄付をいただいた。令和5年度も法人活動紹介の印刷物を活用するなど、引き続き寄付・賛助会員増加に努める。</p> <p>事業執行については、令和3年度から静岡県臓器移植Coが増員され2人体制となっている。県内での臓器提供事例が発生した際に迅速な対応が可能となるよう教育を進めていく。</p> <p>また、継続実施しているポスターコンクール及び移植推進月間イベント・グリーンライトアップについては、引き続き参加の呼びかけを行い、普及啓発活動の広がりを図るとともに、これを契機とした協力団体の発掘に努める。</p>	<p>収入の確保については、当該法人は、収益事業を行っていないため、安定的な財源確保が難しいが、法人としても営業活動を行い賛助会員の増員増額に取り組んでいるほか、（公社）日本臓器移植ネットワークの助成金を活用するなど、財源確保に努めている。</p> <p>また、令和3年度に増員した静岡県臓器移植コーディネーターに関しては、引き続き経験を重ね、県内で臓器提供が発生した際の迅速な対応を期待する。</p> <p>さらに、事業執行に当たっては、今年度から一般向け啓発の再開が予想されるが、歳入確保が伴わない場合、収支相償の原則に従い、事業見直しや経費削減を行うことで、歳出超過となることのないよう健全経営を行っていく必要がある。</p>

## V 組織体制及び県の関与

### 1 役職員数及び県支出額等

(単位：人、千円)

区分	R2	R3	R4	R5	備考（増減理由等）
常勤役員数	-	-	-	-	役員30名は全て非常勤で、無報酬である。
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	-	-	-	-	
常勤職員数	2	3	3	3	
うち県OB	-	-	-	-	
うち県派遣	-	-	-	-	
県支出額	6,461	11,267	13,181	13,181	
補助金	-	-	-	-	
委託金	6,461	11,267	13,181	13,181	
その他	-	-	-	-	
県からの借入金	-	-	-	-	
県が債務保証等を付した債務残高	-	-	-	-	

※役職員数は各年度4月1日時点、県支出額は決算額（当該年度は予算額）、借入金・債務残高は期末残高

### 2 点検評価（団体記載）

項目	評価	評価理由
定員管理の方針等を策定し、組織体制の効率化に計画的に取り組んでいるか	○	評議員10名、理事18名（代表理事2名）、監事2名で定款上の基準を満たしている。職員については、令和3年11月に常勤職員1名が入職し、常勤職員3名で業務運営を行っている。令和元年から経理業務の一部を会計事務所へ委託し、法人管理業務の整理を実施している。
常勤の役員に占める県職員を必要最小限にとどめているか	-	常勤の役員に、県職員はいない。
常勤の職員に占める県からの派遣職員を必要最小限にとどめているか	-	常勤の職員に、県からの派遣職員はいない。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

### 3 点検評価（県所管課記載）

項目	評価	評価理由
県からの派遣職員について、必要性、有効性が認められるか	-	県からの常勤職員としての派遣職員はいない。
県からの補助金等の支出や借入金等について、必要性、有効性が認められるか	○	県からの委託費は、臓器移植コーディネーターの設置及び臓器移植普及啓発事業を実施するための費用であり、必要な経費である。

※ 評価欄 … ○：基準を満たしている △：基準を満たしていないが合理的理由がある ×：基準を満たしていない

## VI 更なる効果的事業の実施に向けた取組

### 1 外部意見把握の手法及び意見

区分	実施	結果公表	実施内容	主な意見・評価
外部評価委員会	-	-		
利用者アンケート	○	-	<p>①臓器移植ポスターコンクール ・審査参加者 (掛川西高校パソコン部生徒、役員、関係医療機関職員) 実施時期：令和4年9月</p> <p>②グリーンライトアップ(医療機関では令和4年度初実施) ・医療機関職員(聖隷浜松病院、焼津市立総合病院) 実施時期：令和4年10月</p>	<p>① 「臓器移植をすることで助かる命があることがポスターから伝わりました」(掛川西高校) 「臓器提供という難しいテーマをどう伝えようか悩み、工夫し、描いている様子が各々のポスターから感じられました」(審査参加者) 「作品に込められた真っ直ぐな想いを感じ、みんなで考えることを積み重ねていきたいと改めて感じました」(同上)等</p> <p>② 「「グリーンリボンデー」は家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認する日です。当院も、患者さんや市民の皆さんに関心を持っていただきたいと思い、今年が初の試みとして、病院玄関を移植医療のシンボルカラー・グリーンにライトアップします。」(聖隷浜松病院担当課職員) 「焼津市立総合病院もグリーンライトアップに参加させていただき、大変光栄に存じます。」「私も自院のグリーンライトアップを撮影いたしました。」(焼津市立総合病院医師)</p>
利用者等意見交換会	-	-		
その他( )	-	-		

○：実施している／公表している    -：実施していない／公表していない

### 2 事業やサービスの見直し例

10月の臓器移植普及推進月間のグリーンライトアップは平成30年からの継続事業で、協力施設を徐々に増加している。令和4年度は、初めて県内2病院でのライトアップを実施し、病院のHPでも告知を行った。今後も協力団体の広報ツールや様々な媒体を活用し、広報活動を進めていく。